

春季大会を顧みて

講演企画委員会

(春季大会最終日(1970年5月25日)に行なわれた座長座談会の記録です。委員交代期に当り遅れましたが重要なので掲載します。なおこの座談会は長期計画委と合同となりましたが、それに関する部分は別にあるので、ここには省きます)

参加者 座長、講演企画委、長期計画委、その他

U 雲物理の方面では着実に進んでいるが、力学との境界領域を開拓しようとする努力が少い。

N 境界層の方面では GARP で問題になっているように、接地層より上のことがようやく問題になって来たのがよい。気球やライダーを使って調べることは大変必要で、これに伴う測定の精度の研究や開発も、今後ますます必要であろう。

O 乱流の分野はもっと広い筈だが、今回は特定の分野に限定された感があり、境界領域が少い。海陸の相互作用とか、CAT 等も少なかった。今後のアイデアについても新しいものが期待される。乱流と過度の物理的な見方の関係等もその一つであろう。総てがこれからの問題のように思える。

K 熱帯気象は活発で、ポテンシャルが高まっている。データの点では行きづまっている。

M 力学では分野が広いので座長が難かしい。内容が盛り沢山で、討論したくても時間がない。もっと時間を充分とってほしい。

K 線型理論が多かったが、非線型理論もやっけて行くべきだと思う。解析の方面でも新風を吹き込むようなものがほしい。

A 対流理論が多くなったし、集誌でも年代から増加しつつあり、着実にのびている。室内実験や雲物理等多岐にわたってきてもいる。こんなに多数の講演を短時間に聴くには、講演のアレンジを座長が変えられるようにしたら、少しはよくなるのではないか。

N 長期計画をやるうというのだから、こんな短期のことばかり論じてはだめだ。10年前に原水爆禁止の声明を出したときはもっと真剣だった。今汚染の問題について学会では声明を出していないのはなぜか。学会はもう少し抜本的であってほしい。きれいごとには困る。

C 衛星と気候が同一会場になっているが、衛星はむしろ総観気象に入れるべきではないか。地方の研究者にとって研究を進める上にどこが問題なのか。この点でもっと積上げた論議がほしい。

M 気象庁関係者が少いのは残念だ。地方の人でも学会旅費を出せるように等して、このギャップを埋めることが極めて必要である。

委 確かに時間はつまっている。これを直すには夏と春の講演会にも大会なみに申込みが必要で、これは一時はうまく行っていた。しかし予稿集を一カ月早めたために大会集中が加速されてしまっている。この点皆さんに真剣に考えて頂きたい。

—1970年10月14日受理—